

# パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報 2018年3月1日 174号  
世界平和地球村の建設と自然環境の保護



## パラグアイ青年21日研修会特集

植樹園の草刈りを終えて。1月30日



タロイモの収穫を体験する研修生たち。1月29日想を述べ、寸劇、歌など多くの実地体験学習を取り入れています。泥にまみれてのタロイモ収穫、滝の汗を流した草刈り、首まで水に浸かったパクー追い込み、カトルセ・デ・マジョ村の先住民訪問、等々。二月一日、最後の晩には修了式が行われ、研修生たちが感謝の心を伝えました。中でもレダ開拓を題材とした出し物は、レダがどれほど深く、鮮烈な印象を青年たちの心に与えたかを、どうかがわせるものでした。「今回の研修会では、とても心情的な人が多かつた。レダプロジェクトを理解してくれたかった。」  
（佐野氏の報告）

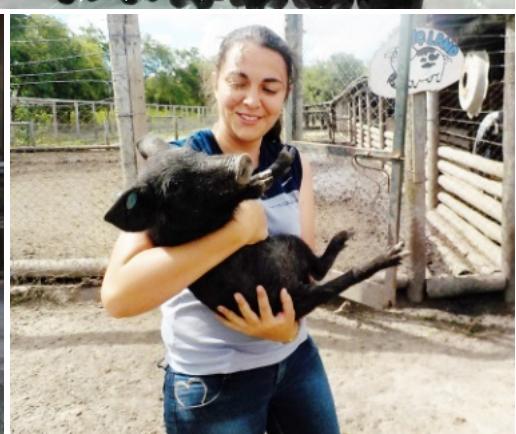
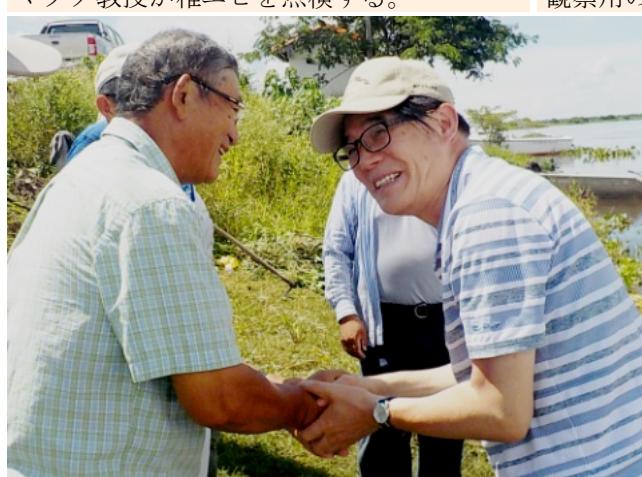
これは、レダ基地において、第三回。パラグアイ青年二十一日研修会に参加した若者たちが、修了式で歌った「パンタナールのオリーブの木」という歌の一節です。パンタナール地域でのさまざまな体験学習を通して、心に強く抱いた思いを、力強く、美しく、歌声で表現しました。

研修生チームは、アルゼンチン、ベネズエラ、コロンビア、パラグアイから集った、十八歳から二十六歳までの青年男女十九名。これに講師、グループリーダーなどのスタッフ六名、および台所担当スタッフの前・後期各二名を加えると、総勢二十九名。もちろん、中田所長、佐野氏、岩澤氏をはじめとするレダ基地常駐スタッフも、レダの意義と開拓史などの講話、生身の体験談、各種体験学習指導、受け入れと活動環境の準備、先住民コミュニティ訪問のためのコーディネーション、その他の分野で、全面的にサポートしました。

一行は、一月十五日にレダ基地に到着。二月一日に貨客船アキダバンに乗つて、別れを惜しみつつ家路に就きました。プログラム内容は、歴史ある青年奉仕隊の伝統にならい、多くの実地体験学習を取り入れています。泥にまみれてのタロイモ収穫、滝の汗を流した草刈り、首まで水に浸かつたパクー追い込み、カトルセ・デ・マジョ村の先住民訪問、等々。二月一日、最後の晩には修了式が行われ、研修生たちが感謝の心を伝えました。中でもレダ開拓を題材とした出し物は、レダがどれほど深く、鮮烈な印象を青年たちの心に与えたかを、どうかがわせるものでした。「今回の研修会では、とても心情的な人が多かつた。レダプロジェクトを理解してくれたかった。」  
（佐野氏の報告）

私たちパンタナールのオリーブの木  
どんな困難にも、愛を持って立ち向かえる  
覚悟ができる一人ひとり♪

レダ基地では



# テーマは愛燐燐と! 福地建設勝利!

二月三日（土）東京渋谷の会場で南北米福地開発協会の新年会が開かれ、全国各地より、百九十名を超える会員が参加しました。

テーマは「愛燐燐と! 福地建設勝利!」プログラムは二部構成で、まず第一部として、二月度の定例集会を持ち、創始者韓鶴子総裁の進める世界平和活動の最新の躍進を伝える映像を視聴し、その現場からの報告を受け、希望的なビジョンと決意を参加者全員で共有する時間となりました。

祝歌は「パンタナール讃歌」です。竹ノ内美紀さんが情感豊かに歌い、聴衆の心を、レダの美しく雄大な大自然と、先駆者の心情へと誘いました。午後からの第二部では、はじめに昨年中に他界された、功労ある先輩諸氏への感謝の想いを胸に、全員で黙祷を捧げました。そして久保木哲子先生による激励の辞があり、島田賢二青年局長による昨年一年間の当会の歩みを簡潔にまとめたプレゼンテーションがなされました。



（2月1日）研修会で歌う青年たち。（2月1日）

次いでレダ基地からの帰国報告となり、小橋恵造レダ商品開発部長と、最長老開拓者の一人である坂口松三郎氏とが、それぞれの実体験に基き示唆と教訓とユーモアに富んだ報告をしました。そしてエンターテインメント。孝成家庭教会の青年たちによる躍動感みなぎる歌とダンスに始まり、優雅な韓国舞踊、周誠紀さんによる美しい音色のタンソ（朝鮮笛）演奏が披露され、本格的な芸術に魅了されるひと時となりました。

締めくくりは、中田欣宏理事長による今年度の活動方針の発表。全国から駆け付けた七名の総支部長たちも紹介されました。そしてお楽しみ景品当選者の発表、全員での愛唱歌齊唱と後藤誠一東京総支長の音頭取りによる万歳三唱



楽しい昼食と交流のひととき。エビなどの塩水養殖の本格研究と、產品の現実的な流通ルートの確立、放牧地の効果的活用、次世代への技術および伝統的精神の相続、教育や研修の場としての環境整備にも、一層力を入れて行きます。さらに近隣コミュニティとの協力の輪を広げ、愛の燐々と降り注ぐ福地建設を、着実に進めていく方針です。

## 二十一日研修生から感謝のことば

（一面記事参照）

レダの先生方へ  
私たちには、神様の創造本然の願いを成就するためには、皆様がなしていらっしゃるすべての努力と最大限の精誠に、心から感謝いたします。私たちは今回研修会に参加して、レダのプロジェクトを可能な限りの研修会に参加して、レダのプロジェクトを可能なものに進めていく方針です。

私たちの目標は平和の世界を造ること。  
ついに世界が神の懷に帰つてくるために。  
私は周囲の人たちを助けるオリーブの木、あなたは私を助けてくれるオリーブの木、私たちはみんなオリーブの木。  
どんな困難にも愛を持って立ち向かえる覚悟ができている一人一人。

ここパンタナールは本来のエデンの園。みんな共に愛し合い、喜びあつて生きる場所。  
親から愛することを学びながら。  
ここパンタナールは特別な場所。  
悪魔が支配することをあきらめたところ。  
親たちが勝利をしたところ。

これがパンタナールの良きオリーブの手本。  
とをとてもうれしく思い、とても誇りに思います。  
そしてこのプロジェクトに対し今後強い関心を持つていくことを皆様方にお約束します。

素晴らしいご指導をありがとうございました。またどのように皆様方がこのプロジェクトを進めてこられたかを知る機会を与えて下さって、ありがとうございました。どうか皆様方、私たちのことを忘れないでください。何故なら、私たちは、皆様方を私たちの心の中につつと抱いていくつもりですし、皆様方が持つておられる愛の心情を常に記憶して行きたいと思うからです。心より感謝を込めて。

二〇一八年二月、21日研修生一同

（訳・佐野道准）

# パンタナールのオリーブの木

（訳・佐野道准）

私たちの使命はお手伝いすることであり、一緒に活動すること。

いつも一つになつて、とどまることなく、周りの人たちを大切にしながら、誰をも傷つけることなく。

私たちはパンタナールのオリーブの木、私たちは特別な使命を持っている。

みんな一緒に共に助けあおう。

私たちの目標は平和の世界を造ること。  
ついに世界が神の懷に帰つてくるために。

私は周囲の人たちを助けるオリーブの木、あなたは私を助けてくれるオリーブの木、私たちはみんなオリーブの木。

どんな困難にも愛を持って立ち向かえる覚悟ができている一人一人。



